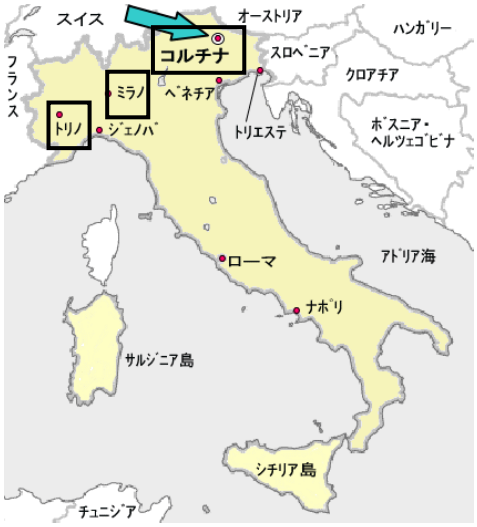
ICH 校長通信　From“B”

令和8年2月24日（火）　NO.22　　文責：尾留川　聡

Self Control

1・2年生の皆さん、お久しぶりの登校ですが、10連休、有意義に過ごせたでしょうか？この期間、世間的には冬季オリンピックが大きな話題となっていましたが、学校がなかったのでリアルタイムで見ていた人もいたのではないでしょうか？

この冬季五輪について、まず一つ訂正させてください。校長通信NO.20で、20年前に荒川静香さんが金メダルを獲ったときのことを書いたのですが、その時の開催都市は「ミラノ」ではなくて、「**トリノ**」でした…。地図上で見ると意外と近いようですが、実際には東京から富士山くらいの距離があります。因みに、ミラノとコルティナ（地図では「コルチナ」と表記）はもっと離れていて、東京と長野で開催していたようなイメージです。



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回のオリンピックで私が特に印象に残っているのは、対照的な2つの結果です。

一つは、フィギュアスケート・ペアで金メダルを獲った「りくりゅう」ペア。ショートではミスが響き5位と出遅れ、相当ショックだったようなのですが、フリーでは歴代最高得点で大逆転。**最後まであきらめない**姿勢が、金メダルに繋がり、日本中に感動を与えてくれました。

一方、スキージャンプのスーパー団体で、日本は金メダルも十分に狙えたのですが、途中で大雪となり競技中止…。その時点での記録のみで順位が決まり、日本は6位…。この結果に対して、二階堂選手は「*いや～……これがオリンピックっすね。*」と発言しました。いやいや、相当悔しさはあったと思いますが、それを前面に出さず、**あきらめの境地**みたいな姿を見せてくれたことが、私は個人的にとても良かったなと思っています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「**あきらめたらそこで終わり**」…「**あきらめが肝心**」…一体どっちが大事なんだ？って感じですが…ポイントは、「**自分でコントロールできることか否か**」ということですよね。りくりゅうペアの場合は、自分たちさえしっかりやれば、まだまだチャンスは残っていました。一方、スキージャンプの方は、自然が相手です。また、他者…ここでは、運営する人たち…の考えや思いを、自分がコントロールすることはできません。自分でコントロールできないのなら、スパッとあきらめる、そして切り替える。そしてそれを次に向かう第一歩とする…。

ただ、ちょっと難しいのは、自分自身のことだからと言って、すべてコントロールできるとは限らないということです。どこまではコントロール可能で、どこから先は限界なのか…見極めを間違えていつまでも固執していると、大きく遠回りすることになります。一方、あまりにもアッサリ自分自身に見切りをつけてしまうと、周囲からは「勿体ない」と思われるようなことにもなってしまいます。

これを避けるためには、日頃から自分自身に正面から向き合って、自分のことをよく理解するよう努めるとともに、実は自分のことは意外とわからないものなので、他者の判断や助言によく耳を傾けるということが大切なのでしょう。